

PRESS RELEASE

2022年4月27日

**情報処理学会 論文誌ジャーナル (Vol. 63 No. 3)において、
奥村貴史教授の論文が特選論文として選定されました**

北見工業大学、近未来保健情報技術特区開拓ユニットの奥村貴史教授の論文『新型コロナウイルスパンデミックにおける健康危機管理用情報システム過剰なトップダウンが引き起こしうる逆説的状况と教訓』が、情報処理学会論文誌ジャーナル (Vol. 63 No. 3)において**特選論文**として選定されました。

本論文は、日本への大混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症への対応における行政機関の非効率性に焦点を当てたもので、行政情報システムの活用の際に、現場の業務知識を欠いたトップダウン型開発の限界と教訓について整理したものです。

新型コロナウイルス感染症対策においては、政府は、感染情報の収集などのためにトップダウン型でいくつものシステム開発を進めました。しかし、システム開発は難航し、開発したシステムも現場業務とのミスマッチが生じた結果、低調な活用状況となりました。一方、地方自治体側では、より少ない権限、限られた予算という制約のなかで、新型コロナウイルスへの実務対応により合致した業務システムを実現した事例が複数生じました。

こうした状況は、行政機関における情報システム開発において、トップダウン型の開発における限界と、ボトムアップ型の開発手法の有用性を示唆していると考えられます。本研究は、失敗が続くとされる行政の情報化施策を改善していくうえで、有用な教訓となることが期待されます。



<発表論文>

掲載誌：一般社団法人 情報処理学会 論文誌

著者：町田 裕璃奈(筑波大学)、日野 麻美(みなと保健所)、堀 成美(東京都看護協会)、奥村 貴史(北見工業大学 工学部 教授)

タイトル：『新型コロナウイルスパンデミックにおける健康危機管理用情報システム過剰なトップ
ダウンが引き起こしうる逆説的状況と教訓』

Title : Public Health Administration and Information Systems under COVID-19 Pandemic: A Lesson
from a Paradoxical Consequence Caused by Excessive Top-down Processes

URL : https://www.ipsj.or.jp/award/ssp_award.html

[https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=pages_view_main&active_action=repository_vie
w_main_item_detail&item_id=217575&item_no=1&page_id=13&block_id=8](https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=pages_view_main&active_action=repository_vie
w_main_item_detail&item_id=217575&item_no=1&page_id=13&block_id=8)

巻, 号, ページ : 63, 3, 725 - 732

<研究サポート>

本研究は、令和3年度厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業より助成を受けて実施されました。

【お問い合わせ先】

北見工業大学 近未来保健情報技術特区開拓ユニット 研究統括・ユニット長

奥村貴史 TEL : 0157-26-9187 E-mail : tokumura@mail.kitami-it.ac.jp

(報道について)

北見工業大学 企画総務課広報戦略係 TEL : 0157-26-9116 E-mail : soumu05@desk.kitami-it.ac.jp